

国立大学法人

奈良教育大学

特色GP

# 現代的課題に対応する導入教育科目群の展開

「考える力」「表す力」の育成をめざした教育者養成  
文部科学省平成15年度「特色GP」採択事業

## 奈良教育大学

シンポジウム

# 特色GPの学生支援に 果たす役割

後援 奈良県教育委員会

会場 奈良教育大学大会議室

日時 平成18年 12月9日(土)

14:00~17:00

## プログラム

## —特色GPの学生支援に果たす役割—

2006年12月9日(土) 14:00～17:00 奈良教育大学大会議室

学長挨拶	14:00～14:05
本学の取り組み紹介	14:10～14:45
シンポジウム	15:00～16:50
副学長挨拶	16:55～17:00

### シンポジスト

#### 安藤 厚 (あんどう あつし)

北海道大学 大学院文学研究科 教授  
専門分野 ロシア文学、比較文学



##### 特色GPによせて

北大では、1995年の教養部廃止・高等教育機能開発総合センターの発足以来、総長のリーダーシップの下に継続的に教育改革に取り組み、教養教育・基礎教育・専門教育を有機的に連関させた一貫性のある総合的な学士課程の構築を目指してきた。2001年度の教養教育へのコアカリキュラムの導入のあと、2003年度に「進化するコアカリキュラム～北海道大学の教養教育とそのシステム」が特色GPに採択されたことから、個々の授業科目の改善が進んだだけでなく、2006年度の基礎教育・外国語教育の改革とGPA・履修登録上限設定による「単位の実質化」を中心とした新教育課程の実現を実現することができた。教養教育・基礎教育に対する全学的な関心の高まり、他大学との交流・情報交換の活発化等、特色GPから得たものは多い。

■進化するコアカリキュラム～北海道大学の教養教育とそのシステム  
(平成15年度採択)

#### 岡部 善平 (おかべ よしへい)

小樽商科大学 商学部 助教授  
専門分野 カリキュラム論、教育社会学



##### 特色GPによせて

小樽商科大学では現在、本学同窓会、高等学校、民間企業等の外部機関と連携して統一的キャリア教育プログラムの開発および実践に取り組んでいる。これは、(1)社会科学系大学としての本学の専門教育、(2)インターシップ、総合科目「社会科学と職業」等、正課のキャリア関連科目、(3)高大連携事業、といった教育活動を統合し、本学在学期間に高校3年間と卒業後3年間程度を加えた10年間を対象に一貫性を重視したキャリア教育プログラムを提供する取組である。本学ではこの取組を「キャリアデザイン10年支援プログラム—15才から25才までのキャリア形成支援教育事業—」と名付け、昨年度GPに申請した。結果は残念ながら不採択ということになったが、学生に長期的な観点から「大学で学ぶことの意義」を理解させ、本来の大学教育の質を維持するという点で、まさにGPの趣旨、目的にふさわしい取組であると考えている。

## 芝井 敬司 (しばい けいじ)

関西大学 副学長 (文学部 教授)  
専門分野 西洋近現代史、史学史



### 特色GPによせて

大学教育の特色を推進するための文科省の方策としては、研究面でのCOEと並んで政策的な成功を収めた試みであったといえるが、その後、現代GPをはじめとする各種のGPあるいはプログラムがつぎつぎと打ち出されたために、その位置づけがあいまいになっているように思える。また、学校インターンシップに関する本学の特色GPは、2005年度の採択を踏まえて現在は事業の深化が進められているが、GPを終了した後の事業の継続に関して、組織体制や費用の予算化に問題点を残している。しかし、本事業の推進のもっとも大きな成果は、派遣された学生であることは言を俟たない。さらに、大学と派遣先学校との組織上のあるいは人的なつながりは、大きな財産になっている。

■人間性とキャリア形成を促す学校Internship—小中高大連携が支える実践型学外教育の大規模展開 (平成17年度採択)

## 松木 健一 (まつき けんいち)

福井大学 教育学部教育地域科学部 教授  
専門分野 教師教育



### 特色GPによせて

戦後の教育の体制が大きく変わろうとしている現在、教員養成の再構築は緊急課題である。特に、教師の専門性への問いを不問にしたまま進めてきた現在の教員養成は、構造的に限界がきているように思われる。実践と理論の架橋を掲げながら、両者が分離したままの授業や教育実習が平然と行なわれている。特色GPでは、実践と理論とを結ぶ教員養成のあり方を再構築する契機となることができた。実践と理論を結ぶためには、学生に実践を省察できる機会を保障し、その場に理論を語る教員が参加し、教員は実践の文脈で理論を再構成して見せること。そして、学生は省察に基づいて再度実践し、実践と省察のサイクルに身をおき、ロングスパンで実践記録をつくりあげること。こういったプロセスを教員養成に実現することの重要性を再認識することができた。

■地域と協働する実践的教員養成プロジェクト (平成15年度採択)

## コーディネーター

## 上野 ひろ美 (うえの ひろみ)

奈良教育大学 教育学部 教授  
専門分野 教育方法学 幼児教育



### 特色GPによせて

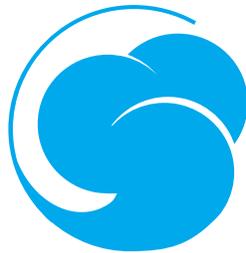
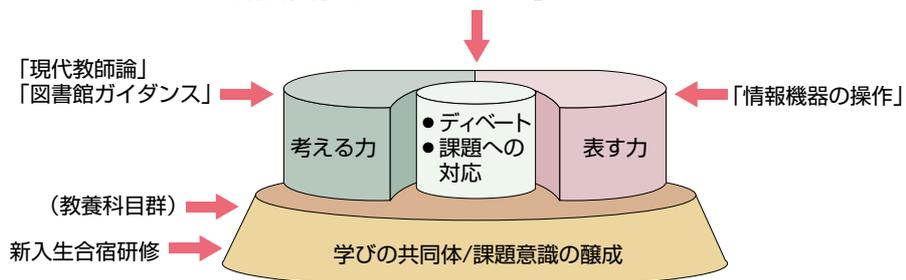
特色GPは数あるGPの先駆けである。第1陣は平成15年、巷間「教育COE」と呼ばれたが、間もなく“GP (= Good Practice)”という正式名称を得て落ち着いた。その後次々と打ち出された諸GPに比して、「教育実績」を前提とする点が特色GPの特徴である。新機軸を華々しく構想する他GPに比べ、地道で継続的な大学教育の実践を顕彰する特色GPの精神は大いに推奨されるべきと思う。大学における学部教育の質の確保と充実は、教育問題であることを越えて社会問題といえるほどに急を要しており、教師教育のみならず大学教育全体にとって切実である。シンポジウムでは、各大学で展開中の「特色GP=優れた大学教育実践」から多くを学びたいと思っている。

■現代的課題に対応する導入科目群の展開—「考える力」「表す力」の育成をめざした教育者養成-(平成15年度採択)

■は、関係する「特色GP」事業

現代的課題に対応する導入教育科目群の構造

「学校教育基礎ゼミナールⅠ、Ⅱ」「総合教育基礎論」  
「総合教育基礎ゼミナールⅠ、Ⅱ」



**NARA UNIVERSITY OF EDUCATION**  
<http://www.nara-edu.ac.jp>